

春 告 草

第 124 号 平成 30 年 11 月 14 日 進路指導部発行

「出願プラン」を考える

6年生にとっては中学受験以来の大学受験である。センター試験まで66日となった今、不安を感じていない人は稀だろう。少しの時間でも、受験勉強に充てたい心境だと思うが、そろそろ受験する大学を決めなければいけない時期でもある。勿論、第一志望は決まっているだろうから、他にどこを受験するか「併願校」を考えなければいけない。5年生、4年生は自分の受験に置き換えて考えておこう。

大学入試「併願」の実態を知ろう

1 併願する意味とは

国公立大を第一志望にしている人は、まずセンター試験を受験し（2019/1/19～20）、その後個別試験を受験する（前期日程は 2019/2/25 以降）。国公立大一本にかける人も中にはいるだろうが、早い人では1月末から行われる私立大を受験する。国公立大受験前に私立大に合格出来れば、「浪人したらどうしよう」という不安を払拭できるし、何よりも第一志望校受験前のリハーサルとして貴重な経験になる。勿論デメリットもあるが、第一志望校の試験で実力を出し切るためにも、併願しておくべきだろう。

併願プランを立てるにあたっては、「併願の目的を明確にすること」が大切だ。自分が希望する結果や状況を考え、併願で「何を、どうしたい」というテーマや優先順位を決めておこう。例えば、「浪人は絶対に回避する」のが併願の目的であれば、プランニングの軸は「合格難易度や入試との学力的相性を慎重に吟味しつつ、納得して入学できる大学を探る」ことになる。勿論、「第一志望校あつての併願」であるから、第一志望校の合格を最優先に考えてプランニングすることが、最善の結果を引き出すための大前提である。優先順位が曖昧な併願は成功しない。第一志望校が明確でない人は、ここを確定させてから併願を考えよう。

2 入試科目と難易度

併願先を検討するにあたって大切なことは、入試科目と難易度だ。入試科目一覧表や難易ランキング表を眺めただけでは、併願プランを適切に立てることはできない。まずは、自分の学力を正しく把握することが先決である。センター試験まで66日と書いたが2カ月ある。私立大入試までは2カ月半から3カ月、国公立大入試まではまだ3カ月以上の時間がある。これからの伸びしろを考慮しながらのプランニングは難しいが、これまで受けた模試の結果表など客観的なデータも参考にして、様々な観点から自分の学力を分析しよう。全体および各科目・分野の現時点での学力到達度、現在までの学習状況と学力の推移、各科目・分野の得意・不得意や自分との相性などを分析してみよう。これからの学力の伸びを過度に期待してはいけないが、学力分析した結果に悲観することもない。弱気になって、安全策に走ってもいけない。昔は「一浪」と書いて「ひとなみ」と読んだが、今は現役生主導の大学入試である。周りも自分と同じように、初めての大学入試なのである。「夢は大きく、希望は高く、受験に向かうハートは強く」である。歯を食いしばって、頑張ろう！

併願のメリット&デメリット

- 一発勝負の不安が軽減され、落ち着いて試験に臨める
- 実戦経験&試験慣れで、実力を発揮しやすくなる
- 高いハードルの大学にも、臆せず挑戦できる
- ×受験先が増えると試験対策の手間も増える
- ×併願校でも落ちると凹む。受かると気が緩む
- ×受験が続くと疲労が蓄積！かかるお金も増える

併願の目的とプランニングの方向性

- 現役合格は絶対にゆずれない
→難易度や学力的相性を慎重に吟味して併願校を選ぶ
- 第一志望校の万一の滑り止め
→第一志望校受験の障害にならない併願校を選ぶ
- 本命受験前の予行演習
→志望校と出題傾向や難易レベルが近い併願校を選ぶ
- 自信をつけて本命校に臨みたい
→難易度の低い併願校から順に受け、手応えを得る
- とにかくこの大学に入りたい
→学内併願をして、同一大学の受験機会を増やす
- お金をかけずに併願したい
→併願割引制度などを利用して出費を減らす
入学金の重複払いを避ける

入 試 科 目

- 第一志望に合わせて受験する科目を共通化
「受験する科目を共通化する」ことが原則である。
- 配点とその比率に注目！得点戦略も考える
得意科目の配点や比率にも注意しよう。得意科目の配点が高く、苦手科目の配点が低ければ、受験をより優位に戦える。国公立大志望者は、センター試験と個別試験の配点比率にも注意しよう。
- 選択科目とその条件、出題範囲を慎重に確認
数学、理科、地歴・公民などは、まず自分の受験したい科目が選択できるのかを確認しよう。センター試験の理科は出願時に登録した選択パターンA～Dと各大学の科目指定の合致に注意する。国語は古文・漢文を含むかなども見逃さないことだ。

難 易 度

- 自分の偏差値±3～5の範囲が合格の目安
合格圏の目安は、偏差値±3～5程度。受験校は難易度がこの範囲内の大学から選ぶのが基本だが、現役生は受験期にかけて実力が急上昇するものだ。高望みは不可ではないが、極端な大逆転を期待すべきではない。
- 実際のレベルや相性を過去問で確認する
ランキング表のデータは併願校の検討には不可欠だが、あくまでも基準だ。実際の難易レベルは入試の過去問で具体的に把握しよう。実際に解いてみて、出題内容や各設問の手ごたえを感じながら、合格レベルとの距離感を確かめることが大切である。
- 入試条件の変更など難易の変動要因に注意！
入試の難易度は様々な条件で変動する。最新情報などを基に、各担任や進路部担当との面談も有効である。

3 入試方式と受験方法

私立大のセンター試験利用入試は併願プランを立てる際、大いに検討してもらいたい入試だ。センター試験の得点結果を合否判定に用いるので、センター試験で高得点が取れば、あっちの大学もこっちの大学も合格することができる。受験料も一般入試に比べれば安く、何よりも**大学ごとの受験対策が不要**である。もちろんセンター試験でこけると、滑り止めのつもりで出願した大学の合格も厳しくなる状況も生まれる。MARCHレベルでも85%以上の得点が必要で、「そこまでは無理」と出願を躊躇する人もいるが、東大の入試で8割取れと言っているのではない。全国平均が6割程度の試験で8割5分である。やってやれないレベルではないはずだ。そこまでの力をしっかりつけて、大いに利用しよう。出願はセンター受験前が一般的だが、センター後に出願できる大学もある。併願での利用を検討したい主な入試方式と受験方法について、その特徴やメリットを解説したので、参考にしてもらいたい。

センター試験利用入試

受験&対策の手間を削減できる
私立大併願に便利な方式

3教科型が主流だが、2教科型や国公立大に近い4～6教科型もある。センター試験の得点とその大学独自の得点で合否を判定するセンター併用型もある。

※この他にも、2～3科目を受験して、最高得点の1科目で合否判定したり、高得点科目の配点比率を高くする「得意科目重視型入試」や、入試科目が1～2科目と少ない「少数科目型入試」を実施する大学もある。関西圏の大学を受験する場合でも東京で受験できる学外試験会場を利用すると、試験日程や移動費用、宿泊費節約の面でメリットは大きい。一部の私立大が2月下旬から3月に実施する3月入試も視野に入れておくと良いだろう。

全学部日程入試

学部別試験とは別日程
1回の受験で複数学部の合否判定

全学部が同日に共通の問題を使って一斉に行う私立大の入試方式。大学によっては、一度の試験で複数の学部・学科を併願できる場合もある。

学 内 併 願

同じ大学に何度も挑戦
合格率アップを狙う

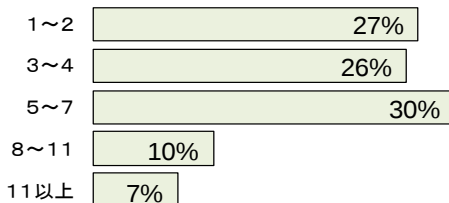
本命校には有効な作戦だ。大学によっては、学部が違って出題傾向が似ている場合が多く、受験対策を共有化できるメリットがある。立教大では学内併願を勧めている。

4 併願する校数とスケジュール

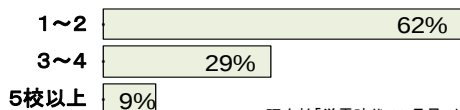
十分承知していると思うが、入学試験は「数撃ちゃ当たる」訳ではない。実力が発揮できるプランを考えて受験計画を立てることが大切だ。私立大学は1月下旬から3月上旬にかけて入試が行われる。1校受験して間隔をあけて次を受験すれば、試験の復習もできるし、体力の回復も図れるのでオススメだが、主要な大学は2月上旬から中旬に集中する。どうしてもここは外せないというケースは連続受験になってしまうことも想定しておこう。私立大学の受験料は一般的ところで、1回の受験で35,000円必要だ。国公立大は17,000円（センター試験は3科目以上の場合で18,000円）であるから、費用負担も考えて出願計画を立てたい。

受験校数の目安は、第一志望校も含めて**5～6校程度**（平均値は4.8校）。「**目標校1、実力相応校3、合格確保校2**」が基本パターンとなるが、自分の目的に合わせてアレンジすると良いだろう。また、入試日程の立て方も重要である。（裏面へ）

何校に出願したか



私立大センター利用入試には何校出願したか



結果を出すためのスケジュール

第一志望受験前提の計画

併願の目的は第一志望校の試験日に最大の力を発揮すること。本命校の試験に支障が出るようではいけない。

「易→難」の順で受験

最初の受験は緊張するもの。理想は難易度が易しめの大学から受験できると良い。本番の試験に慣れつつ、志望校合格への自信を高めていこう。

受験日の間隔を適正に

「詰めすぎず、空けすぎず」適度な頻度・間隔の受験日程はよいリズムを作るが、受験が続くようなスケジュールはコンディションを悪化させる。逆に空けすぎると、感覚が鈍ることも。

連続受験は3日が限度

一度の受験で、体力、集中力は相当消耗する。受験日の連続は最大で3日に止めたい。それ以上続けると、試験中の集中力が低下したり、体調を乱すことにつながりかねない。

センター利用など別方式の受験

併願校どうしの試験日が重複したり、試験日が何日も連続するような場合は、センター利用入試や全学部日程入試など別日程の試験も利用しよう。

受験期間も学習日を確保

現役生は最後まで伸びる。1回1回の入試をきちんと復習して、次の受験に臨もう。受験シーズン中にも学習日を確保し、もうひと伸び！を追求しよう。

5 私立大併願割引は受験料節約にメリット大

入学する大学は1つなので、受験校は少なくしたいところだが、そうも言うてはいられない事情である。ならば、少しでも受験にかかる費用を押さえようという点で、志望校に**併願割引制度**があれば、これを利用して受験料を節約する方法もある。

すべてではないが、私立大では複数受験する場合に併願割引などの特典がある。中央大学の「特例措置」を紹介するが、他私大も含めて、募集要項をよく調べて入試日程や受験費用などの面で負担の少ない出願プランを立てよう。

中央大学の入試特例措置

特例措置① 統一入試で1出願目の選考料は35,000円だが、2出願目以降は1つにつき選考料は15,000円となる。

特例措置② 一般入試出願者で、同一学部（法学部は同一学科）の英語外部検定利用入試や大学入試センター試験利用入試併用方式、大学入試センター試験利用入試単独方式（前期選考）を同時に申し込む場合は、一般入試の選考料だけで受験できる。

特例が適用となる出願パターンは以下の通り。

※一般入試と同一日に実施する同一学部の英語外部検定試験利用入試と

大学入試センター試験利用入試併用方式並びに同一学部の大学入試センター試験利用入試単独方式（前期選考）に適用。同時出願（同一志願票での出願）に限り適用。

理工学部の大学入試センター試験利用入試併用方式は、一般入試と異なる日程のため特例措置は適用されない。

特例措置③ 理工学部センター併用方式で2学科出願する場合、2学科目の選考料は10,000円となる。

特例措置④ 法学部法律学科、国際企業関連法学科の一般入試で両学科併願の場合、2学科目の選考料は15,000円となる。

(例)

経済学部Ⅰ 試験日 2/14	一般入試Ⅰ	35,000円
	英語外部検定試験利用入試Ⅰ	19,000円
	センター併用方式Ⅰ（英語選択）	19,000円
	センター併用方式Ⅰ（数学選択）	19,000円
経済学部Ⅱ 試験日 2/15	一般入試Ⅱ	35,000円
	英語外部検定試験利用入試Ⅱ	19,000円
	センター併用方式Ⅱ（英語選択）	19,000円
	センター併用方式Ⅱ（数学選択）	19,000円
経済学部	センター単独方式（4教科型）	15,000円
経済学部	センター単独方式（3教科型）	15,000円

選考料合計金額
70,000円

※センター試験を国語、地歴・公民、数学、外国語の4教科受験しておけば、7万円で最大10の試験区分への出願が可能
中央大学は1枚の出願票ですべての試験区分への出願ができる
この場合は提出する調査書も1通で済む

※詳細は大学HPで公開されている入試要項を確認してください

センター得点率

難関大合格には8割以上が必達！

国公立大入試はセンター試験と各大学で行われる個別試験を総合して行われる。センター試験で高得点をとることができれば、志望校合格に向けて優位に立つことができる。センター試験で高得点をとるためにはセンター試験独特の特徴を知っておかなければいけない。現行のセンター試験について再確認しておきたいと思います。

全問解ききるため、解答順序をトレーニングする

センター試験は問題がすべてマークシート方式で出題される。高校で学習した基本的内容が身につけているかが問われるので、難問・奇問が出題されることはなく、「満点」をとることも可能だ。しかし、最難関の東大理三出願者でも、センター試験 5 教科 7 科目 900 点満点の最高得点は今年度が 893 点、昨年度は 891 点と、すべての科目で満点を取るのは困難であることもまた事実である。

センター試験で満点を取ることの難しさの一つに、試験時間の割に問題数や必要な情報処理量が多いことがある。例えば英語では長文の単語数、数学や理科では必要な計算量が難易度を左右する。過去、単語数や必要な計算量が多かった年度は、平均点が低いことが多いのだ。単語力・速読力・計算力を鍛えることが大前提だが、それとともに問題全体を俯瞰して、解答する優先順位を迅速に見極める臨機応変な対応力も求められる。

マーク試験といえども、文章読解力を高めよ

マークシート方式ならではの難しさもある。現行のセンター試験の解答方法は鉛筆で枠内を塗りつぶすだけなので、論理力や記述力そのものが必要なわけではない。しかし、文章読解力は非常に重要だ。国語に限らずどの科目でも、問題文や選択肢の違いを素早く正確に読み取る力がないと、学力があっても十分に得点に反映することはできない。またマークシート方式は容易に解答できること自体が落とし穴になることもある。先を急ぐあまり十分なチェックを怠って解答してしまったり、早合点して問題文の重要部分を読みとばしてしまったり、選択肢を見落としてしまったりと想定外の失点をしてしまうことも珍しくない。

2 日間を乗り切る体力と集中力をつける

この他にも、2 日間をフルに戦うことのできる体力・持久力、本番でのプレッシャーに耐えられる精神力や 1 日目最後の英語リスニングで 30 分間維持できる集中力などが鍵を握る。

得点率 5 % の違いで、合格率は劇的に変化！

右のグラフは、ある予備校がセンター試験の得点率と大学合格率の関係をまとめたものである。各ブロックとも右端がセンター得点率 90 % 以上、左側へは 5 % 刻みで、左端は 70 % 未満を示している。どのブロックもきれいな階段状のグラフとなっていて、得点率 5 % で刻んだ集団においては例外なく「センター試験の得点率が高い人ほど合格率も高い」ということが分かるだろう。さらに早慶ではセンター得点率 90 % 以上でも合格率は約 6 割であり、これを下回ると合格率は 3 割にも満たない。難関私大は科目数が少なく、さらに合格者を絞り込む影響でこれまでに以上が高得点が求められているのだ。

1 日目 (1 / 19)		2 日目 (1 / 20)	
地 歴 公 民	9:30 ~ 10:30	理 科 ①	9:30 ~ 10:30
地 歴 公 民	10:40 ~ 11:40	数 学 ①	11:20 ~ 12:20
国 語	13:00 ~ 14:20	数 学 ②	13:40 ~ 14:40
外 国 語	15:10 ~ 16:30	理 科 ②	15:30 ~ 16:30
リスニング	17:10 ~ 18:10	理 科 ②	16:40 ~ 17:40

※1日目 地歴公民を2科目受験する人は入室時間 9 時までに受験教室に入らなければいけない。リスニング終了までの 18 時過ぎまで集中力を切らしてはいけない。2 日目 理科①+理科②1 科目を受験する人も長丁場となる。

センター試験得点率と大学合格率の関係

